

平成 26 年度 事業報告書

平成 27 年 5 月 24 日

特定非営利活動法人 志木総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ

(NPO 法人 クラブしっきーず)

理事長 増田 三枝子

電話番号 048-234-9487

1. 事業の成果

クラブしっきーずは、文部科学省が策定した「スポーツ基本計画」に掲げられた『総合型地域スポーツクラブ』として平成 12 年に発足、平成 14 年に NPO 法人の認証を受けた。

当初、宗岡三小ボランティアルーム内にあった事務局は、法人認証後に初代理事長宅へ移り、平成 20 年には組織体制の大きな変革を経て『まちづくり NPO』として空店舗活用の“ステーション”を開設。法人 10 年目に、3 軒目となる空店舗に移転し、クラブハウス機能をも持つ市民交流の場「まちの縁側」を埼玉県 NPO 基金の助成により整備。設立後 15 年の現在、他に類をみない「新たな福祉活動拠点」として、安定した活動が継続できている。

昨年度の総会において、まちづくりの推進を図る活動をより充実させるため、定款を変更し、「世代や障がいの有無を問わず地域に暮らすすべての人に対して参画を促し、スポーツ・レクリエーション及び文化活動を実施し、それを通して心の交流を図る」ことを目的とした。活動の種類には、「世代間交流」や「福祉教育」も加え、**まちの課題を解決するために実施している事業の実態**に即したものに变えた。この結果、今迄より以上に多様な市民の参加が見られるようになり、当クラブが——まちのためにある、まちとともにある——ことを体現しているに他ならない。

さて、いつのときにも、会員の声（あったらいいな）に耳を傾けてプログラム化してきたしっきーずであるが、26 年度に特筆すべきは、文部科学省モデル事業『地域スポーツクラブにおける障がい者スポーツの導入』実施である。全 6 回のスポーツ教室「レッツ車いすバスケット！」を開催し、これをきっかけに事業所や特別支援学級に通う市民の会員登録が増えた。マンデーナイト・アフタヌーン・フライデーナイトの各プログラムや多機能型事業所へのスポレクおとどけを通じて、障がいへの理解が深められ、何よりも『市民どうしの心の交流』が図られたことが一番の成果であろう。

平成 26 年度は、介護予防の「オープンモーニング」、世代間交流の「うごいてうたってほとびる心」の二事業を志木市から受託し、全 95 回、延べ 1,500 名超の参加があった。クラブ自主事業の定期・スクール・イベントプログラムを合わせると、実に 8,500 名に及び、“いつでも、どこでも、どなたでも” スポレクを楽しめる環境に向け、まい進している。

クラブは、「ひととひととのつながり」をテーマに活動してきた。誠実かつ着実な歩みが評価され、11 月の埼玉県福祉大会において会長表彰をうけた。まさに、『スポーツと福祉の融合』の時代到来であるといえよう。